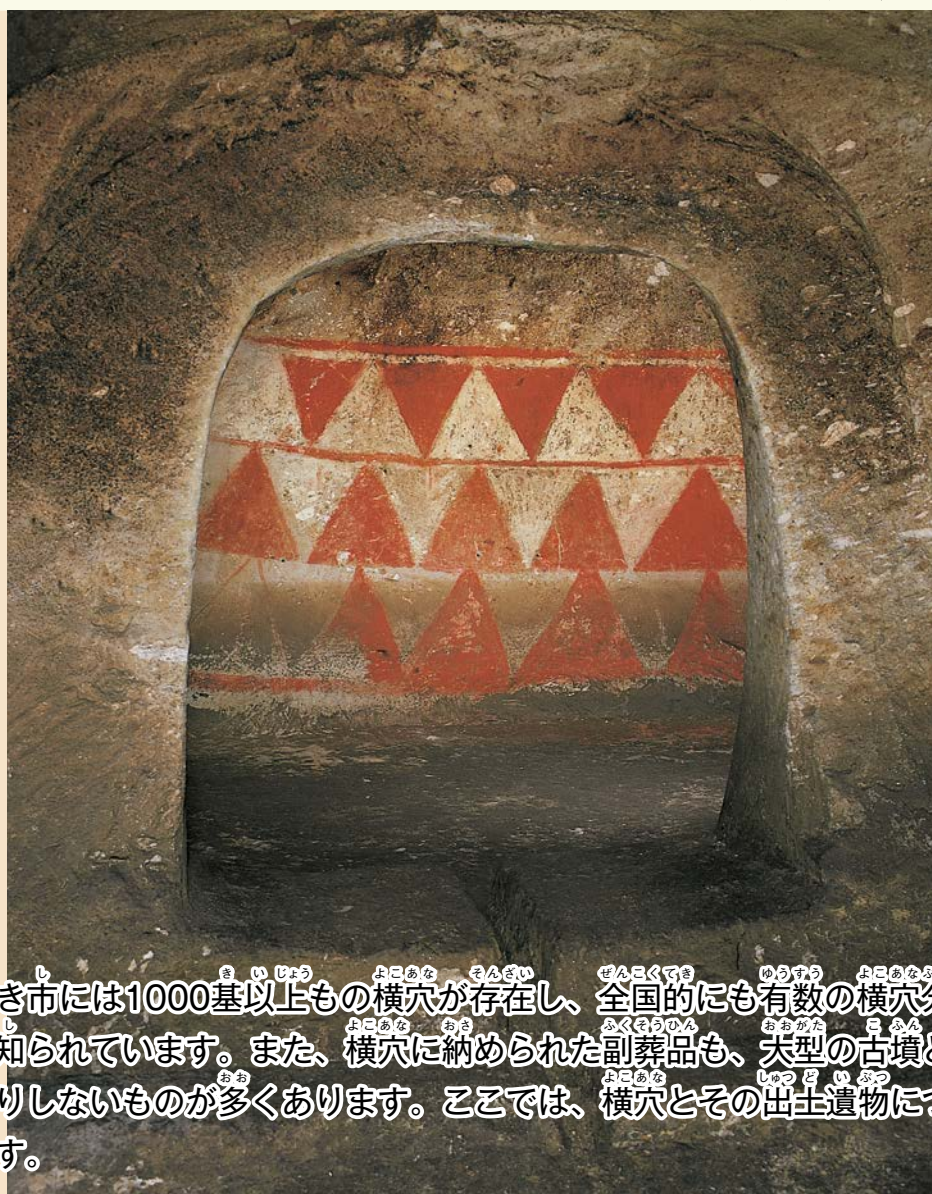


たからものずかん 9

こ ふん じ だい いわきの古墳時代Ⅱ

よこ あな へん
- 横穴編 -



いわき市には1000基以上の横穴が存在し、全国的にも有数の横穴分布地域として知られています。また、横穴に納められた副葬品も、大型の古墳と比べても見劣りしないものが多いです。ここでは、横穴とその出土遺物について紹介します。

くに し せき なか だ よこ あな たいらぬまの うちあざなか だ
国史跡 中田横穴 (平沼ノ内字中田)

2021

こう えき ざい だん ほう じん し きょう いく ぶん か し きょう だん
公益財団法人いわき市教育文化事業団

横穴とは

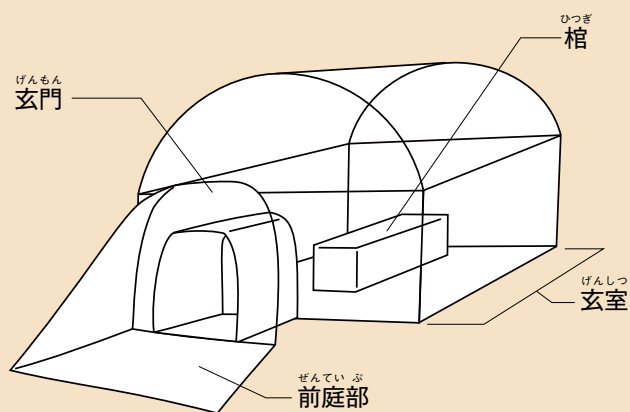
丘陵の斜面にトンネルのような横穴を掘って墓としたもので、横穴墓とも呼ばれます。古墳時代の後半（6世紀）になると多く造られるようになります。1か所に数基から数十基が密集して造られていますが、市内には250基以上造られた遺跡もあります。



弾正作横穴群B地区 斜面に264基の横穴が確認されました

横穴の構造について

横穴の構造は、古墳の横穴式石室とよく似た形をしています。



- 前庭部…玄門の前の祭祀がおこなわれる場所。
- 玄門…玄室の入口。礫や板石でふさがれる。
- 玄室…棺が置かれる部屋。武器や装飾品などの副葬品もここに納められる。

そうしよくよこあな

装飾横穴

古墳に横穴式石室が用いられるようになると、玄室に壁画が描かれるものが現れます。壁画には円文や三角文、渦巻文といった幾何学的な模様から、人物や動物など様々なものがあります。横穴も同様に彩色や壁画が描かれたものが現れます。

装飾される古墳や横穴の数は、ごくわずかであることから、特別な人物が埋葬されたことが考えられています。



きよ と さくおうけつ ふたば まち
清戸迫横穴（双葉町）

清戸迫横穴群には300基以上の横穴があります。そのなかの76号が装飾横穴で、渦巻文、帽子をかぶった人物、矢を射る人物、馬に乗った人物、鹿や犬などの動物が奥壁に描かれています。

ていきよう ふたば まちきよういんかい
提供：双葉町教育委員会

いずみぎきよこあな いずみぎきむら
泉崎横穴（泉崎村）

東北地方で初めて見つかった装飾横穴です。馬に乗って鹿を追い矢を射る人物や、手を広げて立つ人物、何かを捧げ持つ人物などが壁面に描かれ、天井には渦巻文や珠文が描かれています。



ていきよう みなみそう ま しきよういんかい
提供：南相馬市教育委員会



ていきよう いずみぎきむらきよういんかい
提供：泉崎村教育委員会

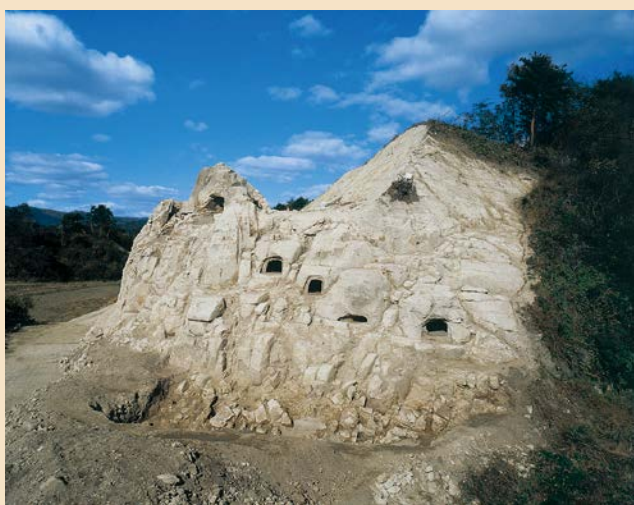
は やまよこあな みなみそう ま し
羽山横穴（南相馬市）

天井に赤い斑点による珠文が描かれ、玄室の奥壁左側には人物と馬、中央には上下に並んだ二人の人物に加え白い鹿と盾、右側には4本の線でつながれた2つの渦巻文が描かれています。

しもかわ こ だ よこあなぐん
下川小田横穴群

よつくらまちしらいわあざしもかわ こ だ
四倉町白岩字下川子田

県道工事により、6基の横穴が調査されました。副葬品は、大刀や鉄鏃といった武器、勾玉やガラス小玉などの装飾品が見つかりました。4号からは146個の鉄鏃が見つかり、この横穴群を特徴づけています。また、弓の飾金具である鉄製の両頭金具が6個見つっています。



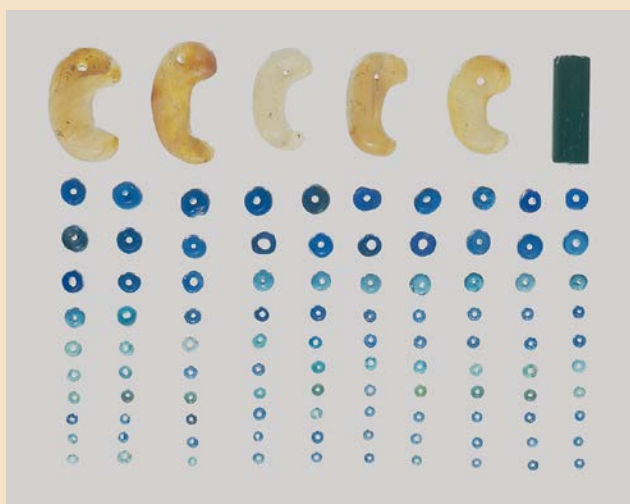
しもかわ こ だ よこあなぐん ぜんけい
下川子田横穴群の全景



てつぞく しゅつど ようす
鉄鏃が出土した様子（4号）



そうしよくひん しゅつど ようす
装飾品が出土した様子（3号）



しゅつど まがたま くだたま せいこだま
出土した勾玉・管玉・ガラス製小玉（3号）

み だい よこあな ぐん 御台横穴A群
うちごう み だいさかいまち み だい たかやす ば 内郷御台境町御台・高安場

こくどう ごう かいこう じょう により、46基の横穴が調査されました。副葬品は、てつとう や てつぞく などの武器、ガラス小玉や土製小玉などの装飾品に加えて、土器が見つかりました。

18号は、土器の年代から調査された46基の横穴の中では一番古いもので、6世紀後半に造られたことがわかりました。



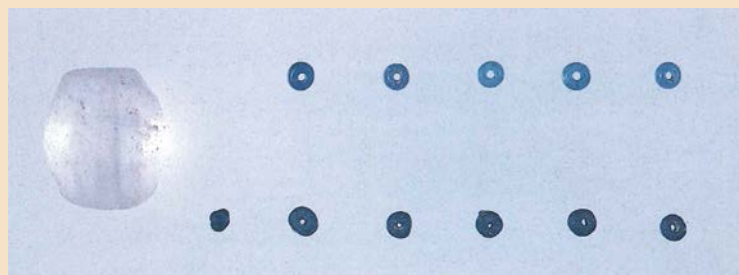
み だい よこあな ぐん ぜんけい 御台横穴A群の全景



ぜんてい ぶ ちょう き しょうきょう 前庭部の調査状況



ごう しゅつ ぶ とき じょうだんひだり すえ きていへい は じ きつき てん かめ てつとう ちゅうだん とう す げだん 18号から出土した土器（上段左から須恵器提瓶、土師器杯2点と甕）と鉄刀（中段）と刀子（下段）



きり こ だま ひょうさい と ガラス製小玉（上段：17号・下段18号）

いわきの横穴紹介

小申田横穴群

小川町上平字小申田

市道工事中に見つかり、北群で28基、東群で15基、合わせて43基の横穴が調査されました。副葬品には、直刀や弓などの武器、銅釧（腕輪）や勾玉などの装飾品と土器が見つかりました。

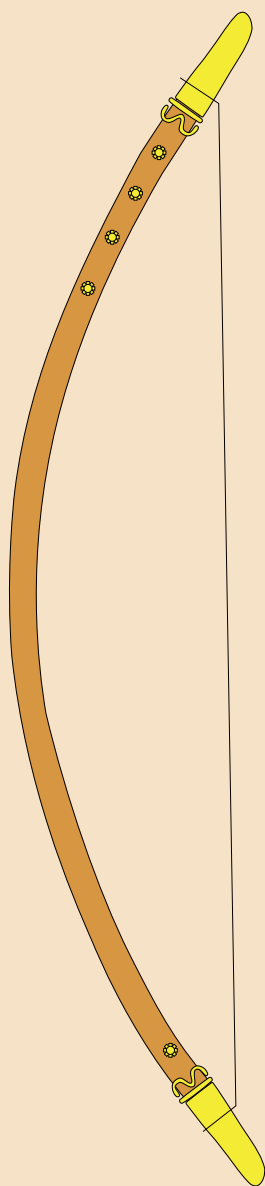
北群の18号では、飾り金具が装着された状態の弓が見つかりました。この発見で、両頭金具が飾り弓に使われていたことが分かりました。



空から見た小申田横穴群



飾り弓や銅釧が出土した様子（北18号）



飾り弓の復元イメージ



だんじょうさくよこあなぐん 弾正作横穴群
よし ま まちいまに いだ あざだんじょうさく 好間町今新田字弾正作

A地区で45基、B地区で114基、合わせて159基の横穴が調査されました。副葬品には、直刀や鉄鏃などの武器、勾玉や切子玉などの装飾品、土器が見つかりました。調査された横穴以外にも105基の横穴が確認されており、市内では最大の横穴群となっています。前庭部からは祭祀に使われたと考えられる須恵器の甕や長頸壺が見つかりました。



すず つくろ うでわ しめつど ようす ちく ごう
鈴付き釧（腕輪）の出土した様子（B地区47号）



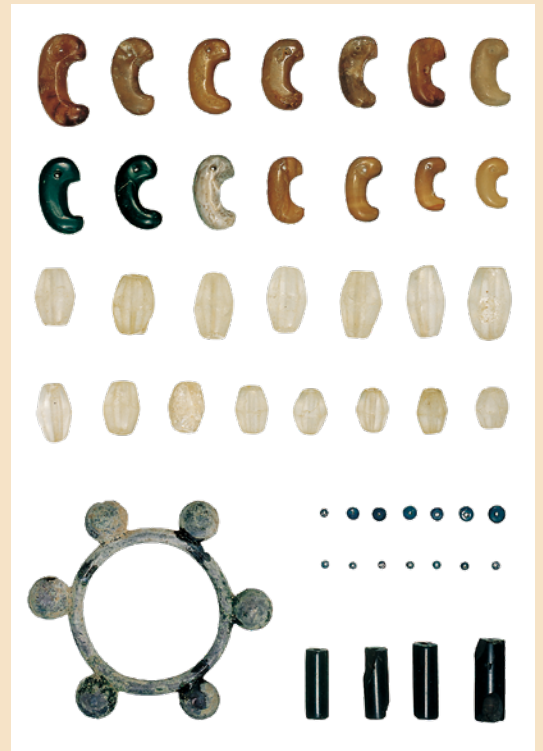
げんもんまえ さいし つか す え きちようけいつぽ ちく ごう
玄門前の祭祀で使われた須恵器長頸壺（B地区52号）



す え きかめ ちく ごう
須恵器甕（B地区103号）

す え きちようけいつぽ ちく ごう
須恵器長頸壺（B地区67号）

ぜんていぶ さいし つか つぽ かめ
前庭部からは、祭祀で使われた壺や甕などの土器が見つかります。これらの土器は、胴部に穴がけられるなど一部を壊すことがあります。玄室内からは副葬品として納められた勾玉などの装飾品や武器などが納められています。



かくしゅぎょくい すず つくろ ひだりした そうしよくひん
各種玉類と鈴付き釧（左下）などの装飾品

けんどう こうじちゆう はっけん よこあな げんしつ つら ふくしつこうぞう とくちよう こうしつ てんじよう
県道の工事中に発見された横穴で、2つの玄室が連なっている（複室構造）のが特徴です。後室の天井は
アーチのようになっており、周囲の壁には横に連続した赤と白の三角文が3段描かれています。模様の意味
は、魔除けではないかといわれています。

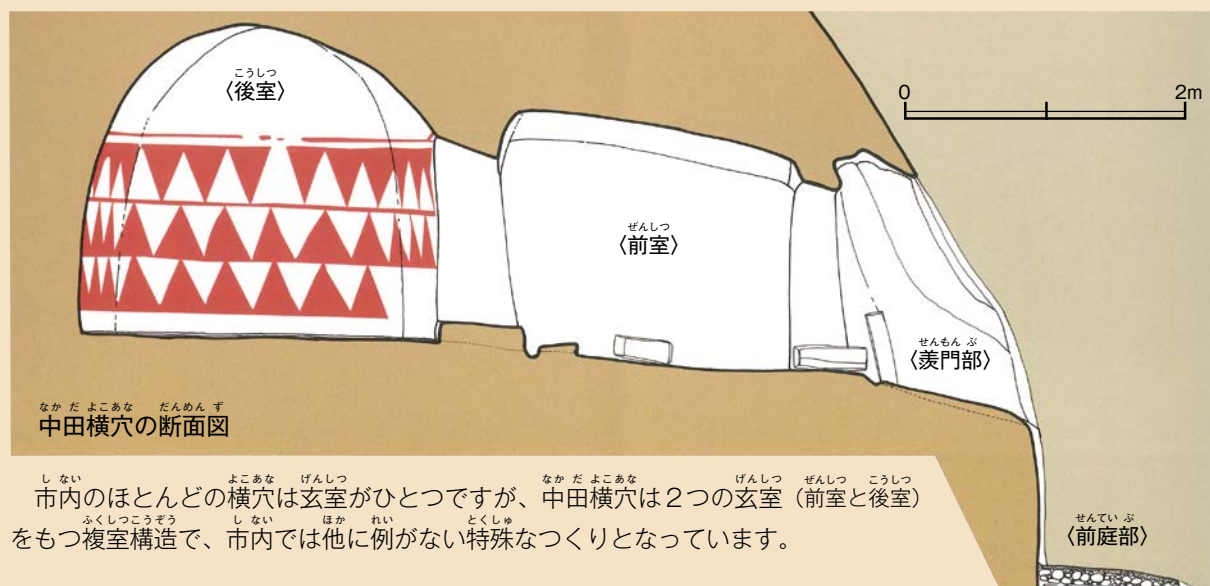
ふくそうひん こくない さいだいぎゆう ばれい ぎようよう こんどうせい ばぐ てつぞく とうす ぶ き けいこう こぎね どき
副葬品は、国内で最大級の馬鈴や杏葉などの金銅製の馬具、鉄鏃や刀子などの武器、挂甲の小札、土器な
ど、約1300点が見つかりました。特に金銅製の馬具はすぐれたものが多く、その豪華さに目を見張ります。



よこあな ふうか ふせ ちょうき ご ほん
横穴の風化を防ぐため、調査後は保存
施設が造られ、市民の宝として大切に守
られています。



なか だ よこあな そうしよく
中田横穴の装飾は、
こうしつない かべ あかしろ
後室内の壁に赤と白の
連続する三角文が3段
にわたり描かれていま
す。赤はベンガラ、白
は粘土が用いらまし
た。



し ない よこあな げんしつ なか だ よこあな げんしつ ぜんしつ こうしつ
市内のほとんどの横穴は玄室がひとつですが、中田横穴は2つの玄室（前室と後室）
をもつ複室構造で、市内では他に例がない特殊なつくりとなっています。



うず しり かわおび
雲珠：尻がい革帯が
まじ 交わるところにつけ
かざりかなぐ られた飾金具。



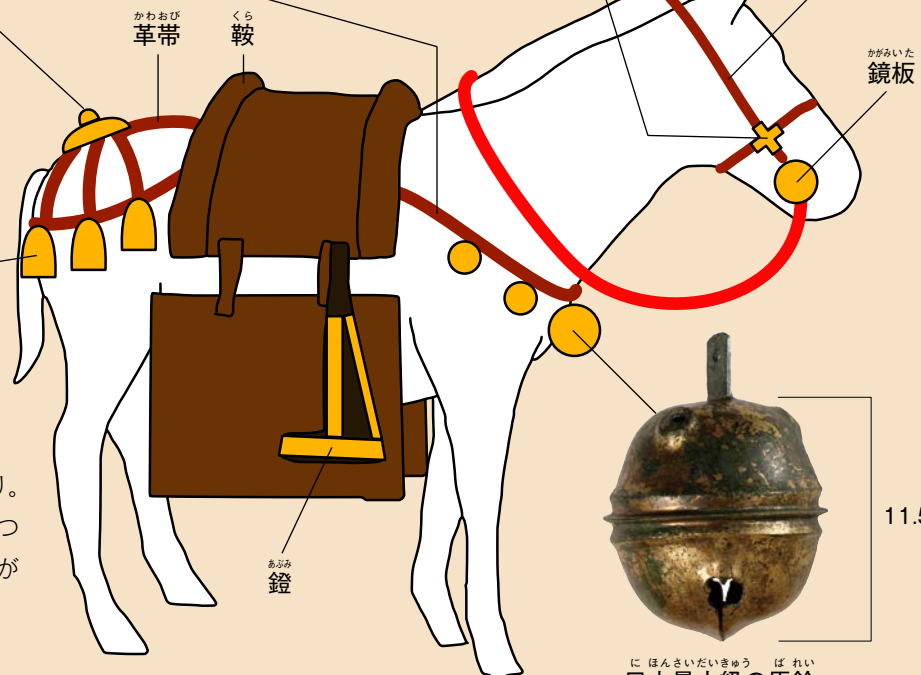
か こ かわおび し
鉸具：革帯を締めるため
かなぐ げんざい の金具。現在のベルトの
おな かたち バックルと同じ形をして
いる。



つじかなぐ ばぐ おも むな
辻金具：馬具の面がい、胸
しり かわおび こうさ
が、尻がい革帯が交差
ぶぶん かなぐ する部分につく金具。



ぎょうよう かくしよ つ さ かざ
杏葉：各所に吊り下げる飾り。
つ がねがた すず
この釣り鐘型のほかに、鈴がつ
いたものなど様々な形のものが
ある。



11.5cm

にほんさいだいきゅう ばれい
日本最大級の馬鈴

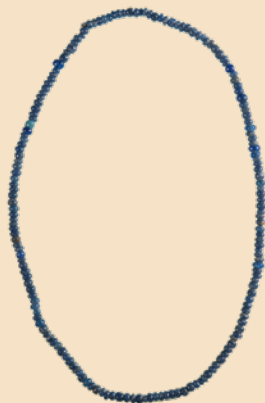
ばぐ 馬具について

ばぐ うま の
馬具には馬を乗りこなすための鞍や鐙や、馬を飾り立てる杏葉、雲珠などがあります。中田横穴で見つ
ばぐ おお こんどう は さまざま もよう かった馬具の多くは金銅が張られ、様々な模様がつけられたすぐれたものが多いです。

ほか いぶつ その他の遺物



なまり せいまるだま
鉛ガラス製丸玉



せいこだま
ガラス製小玉



す え きていへい
須恵器提瓶



どうわん ふた
銅碗の蓋

いわきの横穴

餓鬼堂横穴群 平薄磯字餓鬼堂

39基の横穴が調査され、23号・25号・30号には装飾が施されていました。副葬品には、直刀や鉄鏃などの武器、杏葉や轡などの馬具、勾玉や小玉などの装飾品、鉄斧や鉄鉗といった工具などが見つかりました。1号、12号、23号では工具が副葬されており、埋葬された人物は渡来系技術者と考えられています。

23号は、本横穴群では最大級の玄室で、天井が屋根のように三角形になっています。また、玄室の壁と天井は赤く塗られていました。副葬品が武器、馬具、玉類、工具と種類が豊富であることから、技術集団だけでなく中央との関係も強い人物だったことが推測されます。



餓鬼堂横穴群の背後には太平洋が広がっている



23号の玄門から外へ排水のための溝が掘られている



23号は壁と天井が赤彩されていた



← 雲珠

✓ 鈴が付いた杏葉

↓ イモガイを使った飾り金具

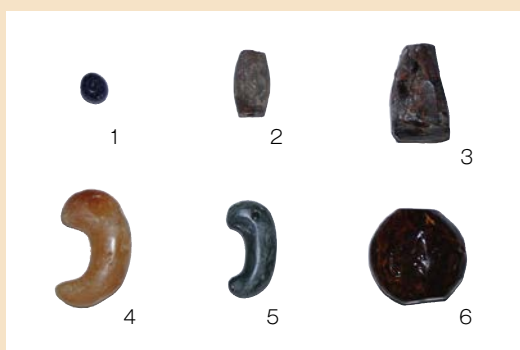




せんごく じんぶつ が えが
線刻で人物画が描かれていた (25号)



てんじょう しゅもん えが
天井に珠文が描かれていた (30号)



ごう しゅつ ど そうしよくひん
30号から出土した装飾品
(1: ガラス製小玉、2・3: コハク製瘰癧玉、
4・5: 勾玉、6: ガラス製丸玉)



どうきよう ごう
銅鏡 (30号)



どうくしろ ごう
銅釧 (30号)



げんしつ おく のこ もつかん こんせき ごう
玄室奥に残っていた木棺の痕跡 (35号)



げんしつ すみ あつ す え き つき ふた てつせいぶみ ごう
玄室の隅に集められた須恵器の杯・蓋と鉄製鐙 (35号)

いわきの横穴

八幡横穴群 平下高久字八幡

30基の横穴が調査されました。副葬品には、金銅製忍冬唐草文透彫金具、金銅製馬具、大刀の把金具、鞘金具、銀象嵌鐔、挂甲の小札などが見つかりました。

12号から見つかった金銅製忍冬唐草文透彫金具は幡金具とされ、法隆寺にしか類例がない非常に珍しいものです。仏教がいわきへ伝来した初期のものとして貴重です。

2号には銀象嵌がある鐔などの武器、金銅製の馬具とともに鉄斧がありました。



八幡横穴群の全景



横穴の近景



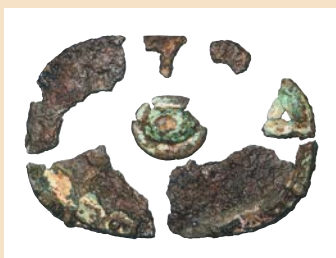
帯飾金具 (23号)



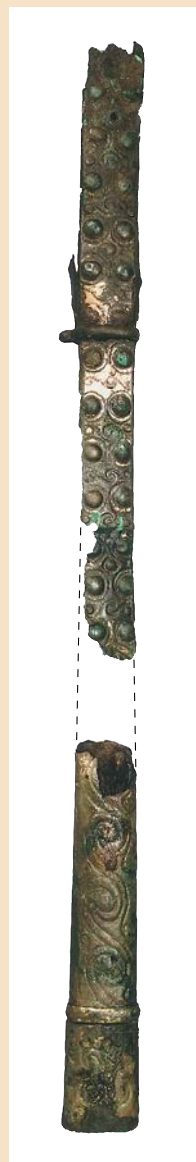
金銅製忍冬唐草文透彫金具 (12号)



鏡板 (2号)



イモガイを使った
飾り金具 (23号)



金銅装飾大刀 (20号)

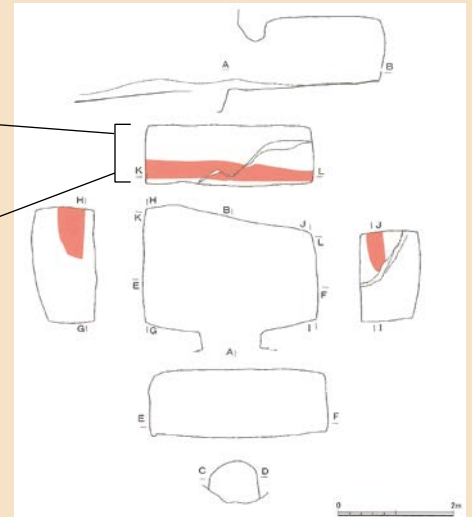
こしまきよこあなぐん
腰巻横穴群

たいらかみ や さくあざこしまき
平神谷作字腰巻

107基の横穴が4つの群に分かれて見つかっています。注目すべきはA群18号横穴で、奥壁に帯状の赤彩が見られます。玄門が開いた状態で発見され、副葬品などは確認されませんでした。



げんもん げんしつ と しゃしん
玄門から玄室を撮った写真

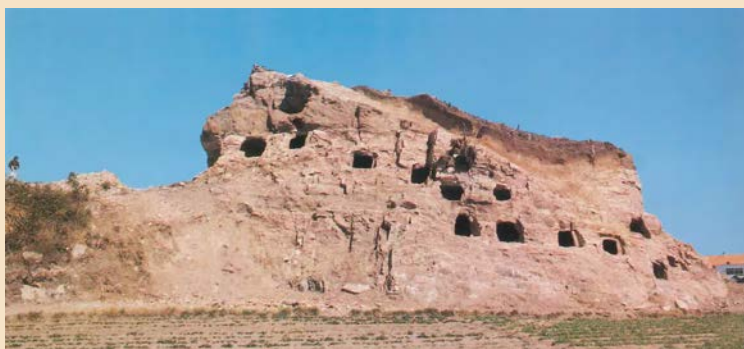


ごう じつそくず
A18号の実測図

しろあなよこあなぐん
白穴横穴群

たいらかみ や さくあざしろあな
平神谷作字白穴

東群6基、南群15基、あわせて21基の横穴が調査され、東1号には金銅装飾大刀が副葬されていました。また、鉄斧や飾り弓の両頭金具も見られます。



しろあなよこあなぐん ぜんけい
白穴横穴群の全景



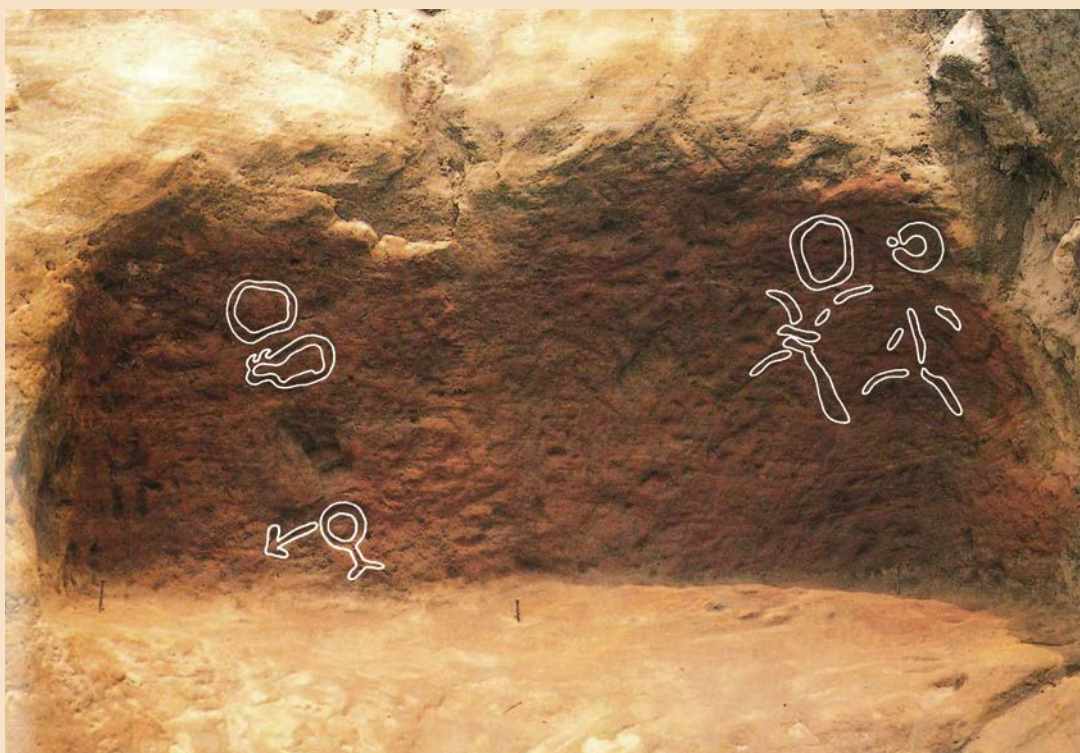
ひがし ごうこんどうそうかり た ち
東1号金銅装飾大刀

ち よ づる よ こ あ な ぐ ん
千代鶴横穴群

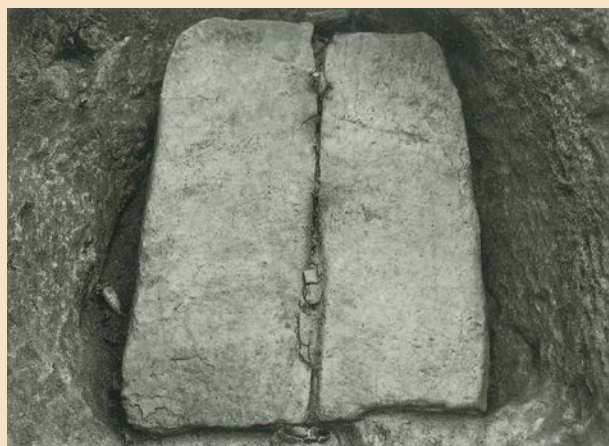
じょうばんみず の や ま ち ち よ づる
常磐水野谷町千代鶴

12基の横穴が調査されました。副葬品には、大刀や鉄鍬などの武器、轡などの馬具、甕玉や小玉などの装飾品がありました。

3号は、1辺の長さが約3mの正方形の玄室を持つ横穴で、線刻で人や動物が描かれていました。また、11号では鉄斧が副葬されていました。



ごう か じんぶつ どうぶつ はくせん か ひつ
3号に描かれた人物と動物（※白線は加筆）



げんもん おお いたいし と ごう
玄門は大きな板石で閉じられていた（5号）

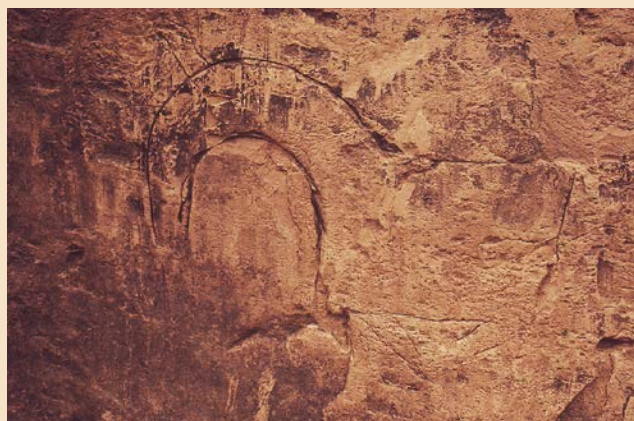


いたいし と ほず げんもん ふ きん よう す ごう
板石を取り外した玄門付近の様子（5号）

たてやまよこあなぐん
館山横穴群

うえだ まちたてやま
 植田町館山

9基の横穴が調査されました。副葬品には、大刀、鉄鏃などの武器が見つかりました。また、玄室の床に玉石が敷かれている横穴が4基見つかりました。6号の奥壁には、線刻によって馬と渦巻文が描かれています。隣接する館崎横穴群では15基の横穴が調査され、直刀や土器が副葬されていました。これら2つの横穴群は、同一の群をなすものであったと考えられます。



うま せんこく ごう
 馬の線刻（6号）



うずまき せんこく ごう
 渦巻の線刻（6号）

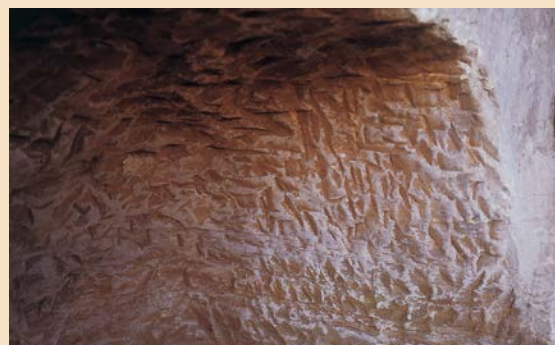
からすうちよこあなぐん
烏内横穴群

にいだ まちたつのくち
 仁井田町辰ノ口

29基の横穴が調査されました。副葬品はわずかで、20号からはガラス製小玉16点が見つかりました。館山横穴群と同じ台地の崖面に造られています。



からすうちよこあなぐん ぜんけい
 烏内横穴群の全景



ごう つく とま こうぐ あと のこ
 11号には造った時の工具（ノミ）の痕が残っていた

令和
平成 AD 2000

昭和
大正 明治

江戸

安土桃山

室町

鎌倉

平安
AD 1000

奈良

古墳時代
AD 500

弥生
0

縄文
BC 1000

旧石器
BC 14000

この本で紹介した横穴の場所

古墳時代の後半になると横穴が出現しますが、古墳と完全に入れ替わってしまうわけではありません。小型の古墳を造り続けた地域もあれば、横穴に切り替えた地域もあるのです。



令和3年11月30日発行

たからものずかん9

いわきの古墳時代Ⅱ

発行
編集

公益財団法人いわき市教育文化事業団(いわき市考古資料館内)

〒972-8326 福島県いわき市常磐藤原町手這50の1

電話 0246-68-6775 fax 0246-43-0395

©2021